

# まなびやまと



大和市イベントキャラクター  
ヤマトン

No. 39

令和8（2026）年3月  
大和市教育委員会

## 新聞記者になろう

新聞記者による出前授業

大和市立文ヶ岡小学校

文ヶ岡小学校では、四年生を対象に、実際に新聞記者の仕事をしている方を講師としてお招きし、「新聞記者になろう」をテーマとした出前授業を実施しました。

授業の冒頭では、講師による自己紹介の後、その自己紹介を正確に聞くことが出来ていたかを問うクイズが行われました。児童は、話をよく聞きながら内容を思い出し、積極的に答える姿を見せました。

授業では、新聞とインターネットの記事の違いについて、具体例を交えながら説明していただきました。児童にとってはそれぞれの情報の伝え方について理解を深めるとともに、伝えたいことを的確



に表す言葉の大切さについても考える機会となりました。まとめでは、実際の記事をもとに

見出しを考える活動を行いました。児童は友だちと意見を出し合いながら、どの情報を伝えるかを工夫し、意欲的に取り組んでいました。

今後、文ヶ岡小学校では、外部講師等を招いた学習を通して、社会とのつながりを意識した学びを大切に、学びを広げていきます。



## 北小まつり

異学年交流を通して育まれるもの  
大和市立北大和小学校

十一月十二日（水）、北大和小学校の全校児童による「北小まつり」が開催されました。三年生から六年生までの各学級が、工夫を凝らした出し物を企画し、校内は終日、活気にあふれていました。

校内では、工作を楽しめるコーナーやクイズ大会、物づくり体験など、各学級の特徴を生かしたさまざまな出し物が行われ、児童は友だちと交流しながら楽し

んでいました。準備や運営を通して、児童一人ひとりが役割を担い、協力して活動する姿が見られました。

出し物を担当した児童からは「自分たちの出し物を、来てくれた人に楽しんでもらいたい。」という声も聞かれ、行事に主体的に取り組む様子がかがえました。「北小まつり」は、児童が学年や学級をこえて関わり合い、学校全体の繋がりを深める大切な行事となりました。



## 創立五十周年記念式典

～半世紀の歴史を刻み、

新たな未来へ踏み出す～

大和市立引地台中学校

引地台中学校は、創立五十周年を記念し、十一月十日(月)午後、大和スタジアムにおいて記念式典を盛大に挙行了しました。生徒、教職員、保護者、来賓、地域関係者らが集い、半世紀の歴史を振り返るとともに、さらなる発展を誓い合いました。

式典のはじめには、校長先生による式辞が述べられました。開校以来、地域社会の大きな期待を担い、多くの卒業生を送り出してきた歴史を振り返り、「この記念すべき時に、生徒、教職員と共に創立五十周年の喜びを分かち合えることを大変幸せに思う。」と語りました。

続いて、古谷田力市長より来賓祝辞を賜り、これまでの学校の功績と地域貢献に深い感謝と敬意が表されました。生徒会長は、先輩方が築き上げた伝統を受け継ぎ、未来に向けて学校をさらに発展させていく決意を力強く述べました。



式典のハイライトは、祝賀記念パフォーマンスを兼ねた芸術鑑賞です。湘南台高校吹奏楽部による迫力ある演奏・パフォーマンスが披露され、会場全体が大きな拍手と歓声に包まれました。演奏後、参加者全員で、強く豊かな心を歌う校歌を斉唱しました。

式典終了後、在校生に感想を聞く、記念すべき節目への強い思いとともに、「五十周年という節目に在校生でいられたことを嬉しく思うし、これから通う引中生にも、楽しい学校であって欲しい。その為に、まずは校舎を大事にしていきたいと思いました。」「湘南台高校の祝賀記念パフォーマンスがとても素敵でした。引中の卒業生でもある湘南台高校の先輩も言っていたように、個性を大切に生きていきたいと思いました。」といった声が聞かれました。学校への愛着と後輩への思いが語られ、感動とともに、今後の学校生活における目標を見出した様子でした。



引地台中学校は、この五十周年を新たな出発点とし、地域社会とともに、次の半世紀に向けた教育活動を力強く推進していきます。

## 心を一つに、思いを伝える

～学びの成果を発表～

大和市立下福田中学校

十月二十四日(金)、下福田中学校において、全校生徒が参加する学校行事「S中祭」が開催されました。本行事は、合唱や発表活動を通して、日頃の学習や活動の成果を発揮する機会として行われています。

S中祭の中心となったのは、学年・学級ごとに行われた合唱発表です。一年生から三年生までが学級ごとに心一つにし、これまでの練習の成果を披露しました。

一年生は、中学校生活で初めての大きな舞台上立ち、伸びやかな歌声を響かせました。二年生は、クラスのみならずを感じさせる安定したハーモニーを披露しました。三年生は、中学校生活最後のS中祭に臨む強い思いを込めた合唱を発表し、会場全体に深い感動を与えました。

また、合唱発表のほか、弁論発表や英語によるスピーチも行われました。生徒は、日常生活の中で感じた疑問や大切にしている考え、部活動や学校生活を通して学んだことなどを、自分の

言葉で堂々と発表しました。聞く側の生徒も真剣に耳を傾け、互いの思いを受け止める姿が見られました。S中祭を通して、生徒は表現することの大切さや、仲間と協力して一つのことをやり遂げる達成感を味わうことができました。

下福田中学校では、今後もこのような行事を通して、生徒一人ひとりが自分の考えを大切にし、主体的に学校生活を送れるように取り組んでいきます。



## おらが学校

「ほっとるーむ始動!」

大和市立大和東小学校

大和東小学校では、今まで相談室と兼用していた「校内教育支援センター」を独立した部屋にするべく、昨年度末より計画を立てて取り組んできました。

「校内教育支援センター」は、文部科学省が誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策として発表した「CO-COLOプラン」の中に示されていて、その取り組みの一つとして「不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える」というものがあります。

本校でもその理念に則り、「校内教育支援センター」づくりを本格的にスタートさせました。自分のクラスに入りづらい時に、落ち着いた空間の中で自分に合ったペースで学習・生活するためにはどうしたら良いのか。そのことを考えるために、教職員の意見だけでなく、児童にもアイデアをもらいながら計画を進めていきました。また、センターの名称についても教職員より募集し、児童に親しみやすいような名前をという思いから「ほっとるーむ」という名称に決まりました。

本校の「ほっとるーむ」は、図書準

備室の一部を改装した「ほっとるーむ①」、相談室と兼用の「ほっとるーむ②」、放送室横にあるスタジオを改装した「ほっとるーむ③」の3部屋があります。「ほっとるーむ①」は3つの部屋の中でも中心となる部屋です。この部屋には、児童がリラックスして過ごすことが出来るように畳を敷き、座椅子を設置しました。

今後も、児童の思いを大切にしながら運営を続け、改善を重ねていきたいと思います。

ほっとるーむ①



ほっとるーむ③



## 学年をこえて繋がる一日

～チャレンジ泉の森～

大和市立大野原小学校

十一月二十一日(金)、大野原小学校では、一年生から六年生までの児童と一緒に活動する異学年交流イベント「チャレンジ泉の森」を実施しました。学年をこえたグループで、学校近くにある「泉の森」を訪れ、自然の中でさまざまな活動を楽しみました。

当日は、運営委員会の児童が中心となり、みんなが楽しめるゲームを準備しました。泉の森に到着後は、縦割りグループに分かれ、クイズやゲームなどの活動に挑戦しました。初めて顔を合わせる児童同士でも、上級生が下級生に声をかけたり、助け合ったりする姿が多く見られました。

参加した児童からは、「下級生が楽しそうにしてくれてうれしかった。」「みんなで協力してクリアできたのが楽しかった。」といった声が聞かれました。活動後は、一緒に昼食をとり、学年をこえた交流をさらに深めました。「チャレンジ泉の森」では、児童が互いを思いやり、協力することの大切さを実感できる機会となりました。

大野原小学校では、今後もこのような活動を通して、児童同士のつながりを大切にした教育活動を進めていきます。



**ホールに広がった  
九校のハーモニー**  
大和市総合文化祭合唱の部に  
市内中学校九校が参加

十一月七日（金）、大和市文化創造拠点シリウスにおいて「大和市総合文化祭合唱の部」が開催されました。この行事には、市内中学校九校からそれぞれ選ばれた一クラスが参加し、各校の代表として合唱を披露しました。

どのクラスも、これまでの練習を重ねてきた成果を生かし、堂々とした歌声を響かせていました。歌声からは、仲間とともに積み重ねてきた努力や、学校の代表として舞台上に立つ思いが伝わってきました。

参加した生徒たちから「ここまで大変なこともあったが、舞台上立つことができて良かった。」「他校の合唱を聴いて緊張したが、よい刺激になった。」といった感想も聞かれました。



すべての学校の発表が終わった後には、参加した九校がそろって「翼を

ください」を合唱しました。シリウス大ホールいっぱい広がる歌声は、学校の垣根を越えて一体となるひとときとなりました。

今回参加した代表クラスは、いずれも三年生でした。この経験を胸に、それぞれの新たな進路に向かって、力強く歩んでいくことが期待されます。



**おもしろ科学館2025**  
科学工作や実験を通して、  
理科の楽しさを学ぶ

大和市教育委員会 教育研究所では、学校や地域と連携しながら、児童生徒の学びを支えるさまざまな活動を行っています。今回は、その取り組みの一つである「おもしろ科学館2025」について紹介します。

おもしろ科学館は、毎年夏と冬に開

催している科学体験イベントです。2025年は、夏の回を八月九日（土）冬の回を十二月六日（土）に、文化創造拠点シリウスで開催しました。

事前申込制の体験ブースは、前年度よりも定員を増やして実施しましたが、それでも定員を大きく上回る応募があり、毎回抽選となるなど、多くの関心が寄せられました。また、申込不要で参加できる当日参加ブースにも、約百五十人の来場があり、会場は大変な賑わいを見せました。

当日は、実験や工作などを通して、児童生徒が科学の不思議さや面白さに触れる機会となりました。参加者からは、楽しみながら学べたという声が多く聞かれました。

教育研究所では、今後も児童生徒が科学に親しみ、学ぶ楽しさを感じられるような機会づくりを進めていきます。引き続き、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。



学校教育日より「まなびやま」とは、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業等を、具体的にお知らせしようとするものです。お読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

〈お問合せ先〉  
大和市教育委員会教育研究所  
046(260)5213